

骨粗鬆症との関連が深い骨折は、関節疾患等とともに「介護が必要となった主な原因」の上位に挙がる

— 厚生労働省が公表したデータにみる現状 —

厚着になることなどで運動パフォーマンスが低下するといった理由から、骨折が増える冬場を迎えています。骨折は、言うまでもなく骨粗鬆症と関連が深く、関節疾患等とともに「介護が必要となった主な原因」の上位に挙げられています。そこで、介護保険の要介護・要支援の認定を受けるに至った原因の疾患等の内容と、自治体が行っている骨粗鬆症検診の状況を、厚生労働省が公表したデータから抜き出してみます。

要介護度によらず原因上位の骨折・転倒骨粗鬆症検診で「異常認めず」は約55%

2019年の国民生活基礎調査によると、介護が必要となった主な原因は、骨折・転倒が関節疾患とともに上位に挙がっていました。

関節疾患は、介護度が比較的低い「要支援」の人の原因で最上位になっていますが、骨折・転倒は、その時(2019年6月)の調査対象者の要介護度にあまり左右されず、広く原因の上位に挙がっています。

これらから、認知症や脳血管疾患(脳卒中)等とともに、骨粗鬆症との関係が深い骨折は、介護が必要になる主要な原因であることが分かります。

■国民生活基礎調査

保健、医療、福祉、年金、所得など国民生活の基礎的事項を調査し、厚生労働行政の企画・立案に必要な基礎資料を得ることを目的とするもの。毎年行う中で、3年ごとに、介護に関する事項を含む大規模調査を実施しており、2019年はそれにあたる。介護の状況についての調査は、全国から層化無作為抽出した2,500地区内の介護保険法の要介護者・要支援者の約7,000人を対象として行われた。

一方、骨粗鬆症検診は、多くの市区町村が、40歳以上の女性を対象に実施しています。厚生労働省が公表している地域保健・健康増進事業報告によると、近年は、全国の市区町村の6割強が同検診を実施しています。

2018年度の場合、全国の骨粗鬆症検診の受診者数は33万5,000人余りで、そのうち約16%にあたる5万4,500人余りが「要精検者」とされました。異常が認められなかったのは、検診受診者の55.2%で、残りの28.5%は「要指導者」とされています。

要精検者とされた検診受診者の割合は、年齢が上がるほど高く、40歳では2.1%であるのに対し、70歳では30.8%に及んでいました。

■地域保健・健康増進事業報告

地域の特性に応じた保健施策の展開などについて、その実施主体である保健所と市区町村ごとに把握し、国と地方公共団体の地域保健施策の効率的・効果的な推進のための基礎資料を得ることを目的に実施されている。骨粗鬆症検診は、市区町村の区域内に居住地を有する40歳、45歳、50歳、55歳、60歳、65歳、70歳の女性を対象とし、問診および骨量測定が行われている。

■ 現在(2019年6月)の要介護度別にみた「介護が必要となった主な原因」の上位(数値は割合・%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
要支援	関節疾患 18.9	高齢による衰弱 16.1	骨折・転倒 14.2	脳血管疾患 10.5	その他 10.3
要支援1	関節疾患 20.3	高齢による衰弱 17.9	骨折・転倒 13.5	その他 11.2	脳血管疾患 8.7
要支援2	関節疾患 17.5	骨折・転倒 14.9	高齢による衰弱 14.4	脳血管疾患 12.2	その他 9.6
要介護	認知症 24.3	脳血管疾患 19.2	骨折・転倒 12.0	高齢による衰弱 11.4	その他 8.1
要介護1	認知症 29.8	脳血管疾患 14.5	高齢による衰弱 13.7	骨折・転倒 10.6	関節疾患 7.2
要介護2	認知症 18.7	脳血管疾患 17.8	骨折・転倒 13.5	高齢による衰弱 11.6	関節疾患 9.7
要介護3	認知症 27.0	脳血管疾患 24.1	骨折・転倒 12.1	高齢による衰弱 9.4	その他 7.2
要介護4	脳血管疾患 23.6	認知症 20.2	骨折・転倒 15.1	その他 9.8	高齢による衰弱 9.6
要介護5	脳血管疾患 24.7	認知症 24.0	その他 14.1	高齢による衰弱 8.9	骨折・転倒 7.5

■主な原因の疾患等は、「脳血管疾患(脳卒中)」「心疾患(心臓病)」「悪性新生物(がん)」「呼吸器疾患」「関節疾患」「認知症」「パーキンソン病」「糖尿病」「視覚・聴覚障害」「骨折・転倒」「脊髄損傷」「高齢による衰弱」「その他」「わからない」「不詳」による区分。そのうち上位5位までを上表に掲載。

※厚生労働省の2019年国民生活基礎調査のデータ(<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukai=00450061&tstat=000001141126&cycle=7&tclass1=000001141143&tclass2val=0>)における「介護が必要となった原因」に基づいて作成。

■ 市区町村が実施した骨粗鬆症検診の実施状況等(2018年度/対象者は女性)

年齢区分	受診者数(人)	指 導 区 分					
		要精検者	受診者数に占める割合(%)	要指導者	受診者数に占める割合(%)	異常認めず*	受診者数に占める割合(%)
総数	335,253	54,528	16.3	95,666	28.5	184,909	55.2
40歳	34,010	721	2.1	4,079	12.0	29,182	85.8
45歳	30,038	671	2.2	3,606	12.0	25,743	85.7
50歳	39,353	1,314	3.3	5,527	14.0	32,488	82.6
55歳	37,786	3,191	8.4	9,505	25.2	25,070	66.3
60歳	47,116	7,743	16.4	16,581	35.2	22,789	48.4
65歳	61,058	14,431	23.6	23,586	38.6	23,019	37.7
70歳	85,892	26,457	30.8	32,782	38.2	26,618	31.0

注) 指導区分の計数が不詳の市区町村があるため、受診者数と指導区分の計が一致しない。

■ 骨粗鬆症検診の実施市区町村数と検診実施率の年次推移

年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
実施市区町村数	1,084	1,076	1,082	1,085	1,087
検診実施率(%)	62.4	61.9	62.3	62.5	62.6
全国市区町村数	1,737	1,737	1,737	1,737	1,737

注) 検診実施率は、「(実施市区町村数/全国市区町村数)×100」の値。

※厚生労働省の2018年度地域保健・健康増進事業報告結果(<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/c-hoken/18/index.html>)の「健康増進編」のデータに基づいて作成。